



[祈りと信仰のまち京都]

景 108 (R01) 歴 114 (R01)

開山は光厳天皇妃である無相定円禅尼で、江戸末期まで24代に渡り内親王が門跡を務め、明治維新後も公家華族が継承してきました。

かつては足利義満の「花の御所」で、京都御苑の北西、烏丸通沿いに続く築地と表門、築地越しに見える本堂や玄関棟の大屋根、玄関車寄の銅板葺唐破風屋根が、堂々たるたたずまいを見せています。

尼門跡筆頭格の寺格にふさわしい厳かな構えの表門を入ると、玄関に導く通路と前庭があり、その西側に本堂が背を向けて建ち、渡り廊下を介して玄関棟へと続きます。玄関棟の西側に宮御殿、大徳寺塔頭弧蓬庵の書院（雲上席）の写しと伝わる残月亭（茶室）と大小の土蔵が建っています。本堂と宮御殿に面して広がる庭は、明正天皇の河原御殿に用いられていた材料を移して築造されたもので、御所風の優美さを備えています。

昭和17年に建てられた本堂は、東京の青山御所から移築後に仏堂へ改造された建物で、皇室にまつわる什宝を受け継いでいます。

宮御殿は、床や違棚を構える主室を含め4室を田の字型に配置し、周囲には畳縁を設けており、近世における尼門跡寺院の御殿の形態を今に伝えています。



表門



本堂



〒602-0023 京都市上京区御所八幡町109

電話番号 075-441-1006

アクセス 地下鉄烏丸線「今出川駅」2番出口より徒歩すぐ